

筑波研究学園都市記者会 御中

筑 波 大 学

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）」及び
「派遣型高度人材育成協同プラン」の採択について

本学は、平成 17 年度文部科学省予算「公募型教育研究経費」における「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）」及び「派遣型高度人材育成協同プラン」にそれぞれ採択されましたのでお知らせします。

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P）」は、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から、特に優れた取組を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の更なる活性化が促進されることを目的とするものです。本学からは、第二学群生物資源学類が実施する「新しい課題対応型体験学習プログラムの開発 ―地域連携によるマイスター育成講座への運営参加を通して―」が採択されました。

また、「派遣型高度人材育成協同プラン」は、大学と企業が一体となって、大学院学生など高度な専門性を有する学生を対象に、長期間、単位認定を前提として企業で実践的なトレーニングを行うもので、本学からは数理物質科学研究科化学専攻が実施する「大学と企業とで育てる創薬化学高度人材」が採択されました。

なお、具体的な取組み概要等については、別添資料のとおりです。

筑波大学総務・企画部広報課

電話 029-853-2040

FAX 029-853-2014

平成17年8月8日
筑波大学

平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」について

「現代GP」とは

- 「現代GP」とは、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の愛称です。GPは” Good Practice ” のことで「優れた取組」という意味で広く使われています。現代GPは、全国の大学・短期大学・高等専門学校から申請された取組の中から、特に優れた取組を選定し財政支援を行うことで、高等教育の更なる活性化が促進されることを目的とする文部科学省の事業です。平成16年度から始まりました。
- 審査は有識者・専門家等で構成される「現代的教育ニーズ取組選定委員会」により厳正に行われ、選定された取組はホームページ等で情報公開されます。
- 申請できる件数は、平成17年度は各大学等2件でした。
選定件数は、申請件数の2割以内又は60～70件とされています。
- 平成17年度「現代GP」全申請件数509件 選定数84件
内、「地域活性化への貢献」（地域密着型）のテーマについては、
申請件数160件 選定数27件
- 選定大学の一覧・申請・審査方法などについての詳細は、文部科学省のホームページで見られます。

平成17年度「現代GP」に選定された取組

取組名称：『新しい課題対応型体験学習プログラムの開発』
- 地域連携によるマイスター育成講座への運営参加を通して -
申請担当者：第二学群生物資源学類長 金井幸雄 教授
応募テーマ：「地域活性化への貢献」（地域密着型）

- 「取組の概要」は、別紙のとおり
- 「現代GP」に選定されると、本件の場合、各年1,000万円を上限に3年間、大学改革推進等補助金の交付による経費措置があります。

問い合わせ先：第二学群 生物資源学類長 金井幸雄 教授
電話 029-853-6031

※個別対応可能日、8月8日(月)～12日(金)

取組名称『新しい課題対応型体験学習プログラムの開発』

- 地域連携によるマイスター育成講座への運営参加を通して -

取組の概要

成熟した知識基盤社会では、科学・技術・文化に対する高い見識と、それらを主体的に地域社会の活性化に活用する「**確かな社会貢献マインド**」と「**豊かな感性**」を併せ持つ人材の育成が必要である。そのためには、大学で修得する専門的知識や技能が身近な社会でどのように期待され、また評価されているかを肌で感じることができる体験的学習プログラムの導入が効果的である。そこで、本取組では、本学の教職員が開発を進めている市民向けの「**マイスター育成講座**」（生活・産業・環境等の分野で、正しい知識と技能を身につけ地域の発展に貢献する指導的市民を育成する公開講座）に、学生を正規のカリキュラムの一環として参画させ、学生自らが大学で修得した理論の実践を通して、自己のキャリア意識と内発的学習意欲を向上させる「**課題対応型体験学習プログラム**」を開発する。すなわち、本取組の主眼は、大学が行なう**社会貢献活動と教育活動の融合**による新たな教育改善である。

（対象地域は、つくば市）

マイスター育成講座への参加による 課題対応型体験学習プログラムの効果

- ▶市民向け「マイスター育成講座」を実験的フィールドと位置づける
- ▶学生は運営スタッフとして参加して、専門別の課題対応型インターンシップ教育を実践する

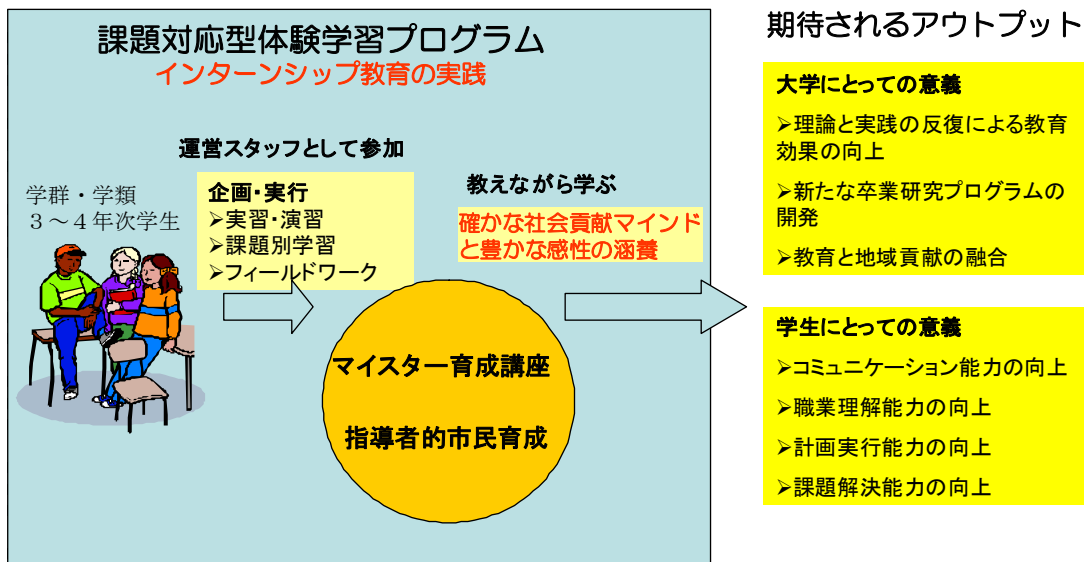


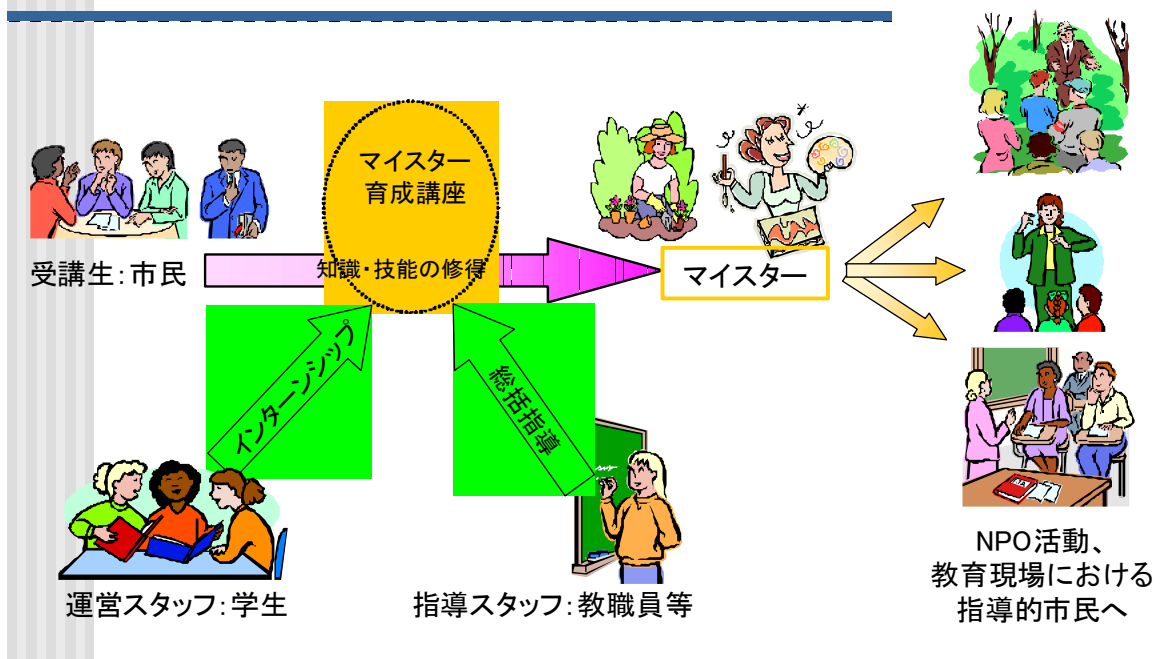
図1 課題対応型体験学習プログラム概念図

注 【マイスター育成講座】 本学は、つくば市と平成15年9月に連携協定を締結し、市民生活、産業育成、環境政策などの広範な分野で27の「ひとづくり」・「ものづくり」事業を展開している。これらは、単に少子高齢化社会における生涯教育サービスの提供という従来型の地域貢献とは異なり、大学の知的資源・教育資源を効率的・有機的に活用して地域活性化のための人間開発を行うという視点が重視されている。こうした実績を基に、生物資源学類は、つくば市およびつくば市教育委員会との連携により、次世代を担う子供達の食育と環境教育に大きな影響力を持つ教師・市民を主な対象として、「食と環境」をテーマに、現代社会における「豊かな食と緑のある暮らし」を実現するための正しい知識と技能を身につけ、地域社会で食育および環境教育の担い手として活躍する行動的な市民を育成する「食と緑のマイスター育成講座」を開発中である。また、芸術専門学群では、市民ボランティアや小中学校の教員を対象として、「美と芸術のある暮らし」をテーマにして、芸術支援に関する知識と技能を身につけ、地域社会での芸術活動を支援する人材を養成する「美と芸術のマイスター育成講座」を開発中である。

マイスター育成講座の概要

マイスター育成講座の概要

生活・産業・環境などの分野で、正しい知識・技能を身につけ、
地域社会で活躍する指導的市民を育成する公開講座



平成17年度「派遣型高度人材育成協同プラン」について

I. 事業の背景・目的

近年、科学技術人材育成の大きな課題として、自らの専門分野の位置づけを社会活動全体の中で理解し、現実的課題の中から主体的に問題設定を行い、それに取り組む能力のある「高度専門人材」の育成が急務であるとの認識が、大学及び産業界の双方で高まっています。

「派遣型高度人材育成協同プラン」では、これらの要求に応えるため、これまでの主として就業体験や職業意識の形成を目的としたインターンシップとは峻別し、産学が人材の育成・活用に関して建設的に協力しあう体制を構築することにより、社会の抱える諸問題や産業界の取組を理解し、知的基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を育成する、これまでにない新たなコンセプトのインターンシップの開発を文部科学省が公募したものです。

II. 事業の概要

- 応募対象；修士課程（博士（前期）課程を含む）等の教育課程において、科学技術分野及びそれに関連する人材を育成する観点から、産学が協同して、企業等の現場を活用した「高度専門人材」の育成を行う新たなコンセプトのインターンシップの開発を目指した教育プロジェクト。
- 申請件数；単独及び他の大学と共同で実施する教育プロジェクトそれぞれ1件まで。
- プログラムの実施期間；概ね3ヶ月以上。
- 事業の実施期間；原則として5年間（2年経過後に中間評価を実施）。
- 事業規模；事業経費の上限額は年間概ね1千万円程度（5年間継続）とし、選定件数は、10件程度を予定。

III. 本学が選定された教育プロジェクト

- 名称；**大学と企業とで育てる創薬化学高度人材**
- 担当者；筑波大学大学院 数理工学物質科学研究科 化学専攻長 新井達郎 教授
- 教育プロジェクトの概要

大学院における化学分野の基礎教育を受けた学生について、大学と創薬化学企業が連携して実施するインターンシップを通じ、「創薬化学の最先端技術と企業論理を備えた企業研究者」を育成する教育システムを開発する。本プロジェクトでは、企業における研究では重要であるが大学では扱わない課題から組み上げた複数の履修コースを選択する型の実習教育と、専攻全体の学生を対象とする事前事後教育が特色となる。

問い合わせ先：数理工学物質科学研究科 化学専攻長 新井達郎 教授

電話 029-853-4315

※個別対応可能日、8月8日(月)、11日(木)、12日(金)



大学と企業とで育てる創薬化学高度人材

- 育成したい人物像: 「創薬化学の最先端技術と企業論理を備えた高度専門人材」
- 現状の大学院化学教育では扱わないが、創薬化学企業における研究では必須である課題の実践的なトレーニングを実施
- 創薬化学の開発研究が概観できるよう、いくつかの課題を組み合わせた複数の履修コースを設定

